第46号
4月
昭和39年4月20日
全世帯配布

広報 よしわら

発行所
吉原市役所
吉原市今泉43の1
電（代）②3111番
編集 文書課
印刷
富士ニュース社

市勢			
東経 138度41分	人口		
北緯 35度09分	国勢調査（35.10.1現）		住民登録 39.3月31日現
東西 14.71キロ	総数	80.944人	85.990人
南北 25.51キロ	男	40.547人	43.366人
面積 174.56キロ平方1キロ	女	40.397人	42.624人
	16.239世帯		18.485世帯

40年を完成目標に着々整備される田子の浦港（後方）と、巨大なパイプラインを使い海の土砂をすいあげて埋め立てをするN食品会社（前方）を空から望む

進む工業都市づくり

富める吉原市へ

すでに大手七社進出

名実とも東海一に急ピッチ

田子の浦港も重要港湾に

東駿河湾工業整備特別地区の指定、県の総合開発計画地域、田子の浦港の重要港湾指定、東名高速道路のインターチエンジ設置、これらを一つの立地要件として進出する大手筋企業、さらには富士市、鷹岡町との合併問題などをひかえて工業都市吉原は、いま飛躍にむかつて大きな変革期をむかえつつあります。これについて現況と今後の計画などを紙面で一望してみましょう。

工業特別地域

東駿河湾工業特別地域は吉原、三島、沼津、富士宮富士、清水、静岡、焼津の八市と裾野町、長泉町、原町、鷹岡町、富士川町、由比町、清水町の七町でその面積は千五百五十平方メートル（県下の一九・九パーセント）人口百十二万八千人（県下の四〇・九パーセント）をしめ、昭和三十四年、国から七大工業地帯の一つとして指定をうけています。

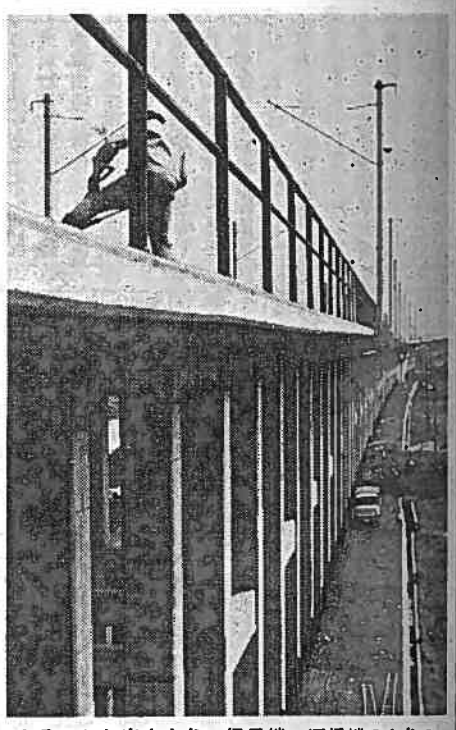
いつぽう県では、これらの地域を対象に昭和二十六年から十ヵ年にわたる第一期総合開発計画を策定、さらに昭和三十六年から四十五年までを目標とする十ヵ年の開発計画をつくり、つづいて工業特別地域の指定にともない、あらたに三十九年から四十五年までの七ヵ年計画の策定を検討中です。したがつてこれからの開発計画は国、県、市の三者によつて立案、執行の方法がとられるわけですが、市としてもこれらの情勢をもとに、今後は工業主要圏として前向きの施策を展開することになるでしょう。

なお、今国会に工業特別地域整備促進法案が提出されているので、具体的な行政施策はこの立法化をまつて計画されることになります。

田子の浦港

田子の浦港はそのむかし吉原港とよばれこの地方の物資集散港として、あるいは原始漁業の根拠地として繁栄していました。しかし陸上交通の発達や漂流土砂のため廃港同様になつてしまいました。ところがさいきん吉原市を中心とする岳南工業地帯の発達で陸上交通はマヒ、このため県の総合開発計画によつて堀込式港湾として立案、昭和三十三年から総工費七〇億円をもつてこの廃港に強大なメスが入れられたのです。その後工事も急ピッチに進み近い将来には開放貿易港としての準備もされています

工事完成の四十年の計画としては最大入港船舶一万重量トン、泊地面積は三十六万平方メートルで年間には二百五十万トンの荷扱量ができると推定もされ、また沼川や江川に運河をつくり三百トンの機帆船を航行させて工場に搬出入する貨物をあつかう計画もあります。



8分どおり出来上り、信号機、通信機のとりつけを急ぐ〝新幹線工事現場〟 …4月15日…

高速道路

東京～名古屋間を三時間で通りぬけできるという東名高速自動車道路も現在その用地買収、下調べをおこなつています。この高速道路は一メートル八十万円が工事費となりますから約十キロメートルはある市内の通過だけでも八十億円の工事費がつかわれるデラックスなものです

交通量は一時間で四千台とみられ、船津から江ノ尾～中里～比奈～三ツ沢～石坂北部をとおり伝法にぬけ市員も最高百二十メートルで、せまいところでも四十メートルぐらいあり、スピード数も八十キロ～百キロをだすことができます。この附近でインターチエンジできるのは吉原のほか沼津御殿場の二ヵ所で、このほかのところでは車の出入りができません。吉原～静岡間は土木工事を三十九年度中に完了して四十年には工事が始められる予定で、三年後には完成されます。

新幹線

東京―大阪間約五一五キロを三時間でつつ走る国鉄ご自慢の〝夢の超特急〟東海道新幹線工事は着々進み十月の東京オリンピックを開通日にと、いま最後の工事に拍車がかけられています。

吉原市における工事も八分どおり完成、あとは自動的に列車をとめることのできるA・T・C信号のとりつけ工事や、駅と駅との間の通信機の敷設工事が中心におこなわれます。市内の延長は約六キロメートルで工事費には十五億八千万円がつかわれています。この付近での停車駅は静岡と熱海です。

この地からみる富士山や四季とりどりの草花は遠く海外にも名をはくし、これからも多くの人の旅情をなぐさめてくれることでしよう。

結び

以上のように私達の住む吉原は、将来の発展に向つていま漸くその姿態を変えようとしています。

いままで富士山の山ふところに抱かれ比較的時代の変革に直接的影響をうけなかつた私達の郷土は、陸に海にその息吹きの門を開き東海の主要工業都市としてその歩を進めつつあるのです。

軌道にのる工場誘致

近代工業化への条件そろう

吉原市が工場誘致を行政的にとりあげたのは、昭和三十四年の東海電化工業からで、これが積極性を加えたのは一昨年末です。それは田子の浦港の築港にともなう海路輸送の実現、高速道路インターチエンジの市内決定、工業用水、豊富な用地適地、地理的に東京―名古屋のほぼ中間地にあること、さらに富士山を背景にした風光の明眉さなど数々の条件が主要魅力となり企業進出が活発になつたもので、現在までに進出誘致の決定したものは、日本建設機械化協会付属建設機械研究所、サンエス石膏、佐野鋼材、日本食品、興和株式会社、藤沢薬品、大阪セメントなどで、合計坪数は約二十万坪です。これらの会社企業は県計画地域の港湾背後地二十二万坪、また市が工場適地として選定したところにそれぞれ誘致の決定をみたものです。そのほか合計二一三万坪の適地が港湾背後地をふくめ市内九ヵ所にあります。

工場の誘致については田子の浦港開発事務局、市商工課がおこなつていますが誘致の結果は市税收の増加を基本に各面について市民生活の向上につながつてくるのです

給食センター完成

吉原給食事業協同組合による「吉原給食」施設がこの程完成、四月二十八日その落成式が行われます。

この施設については、中小企業従業員の厚生福利対策の一助とともに勤労者の保健、体位向上という点からかねて市当局も力こぶを入れ、組合側と協調近代的施設の完成となつたものです。施設の規模は、一食通常五千食で特に流動作業能率の効果をはかるため、独創的設備配置及び、完全衛生設備に考慮がはらわれています。

敷地面積は一、七五七平方メートル（六百坪）施設は厨房室、副資材室、事務室、浴室（付属洗濯場）で新築工事費は土地購入費をふくめて四千三百万円です

失業者に就職を斡旋

職業訓練などを指導して

働きたいが年をとつているため雇つてくれるところがない、あるいは身体が不自由なため就職口がみつからないという人たちのために一定の期間とくべつの就職指導をおこなつて技能を身につけさせ就職をあつせんしよう…と吉原公共職業安定所では「就職促進の措置」をおこなつています。

指導中は職業訓練手当や就職指導手当が支給されますが、げんざい失業保険金などをうけている人は手当ては支給されません。

中高年令の失業者で希望する人はつぎによつて吉原公共職業安定所に申し込んでください。

▼措置を受けられる人
①満三十五才以上で現在失業している人
②身体障害のため、とくに就職がむづかしいと思われる失業者の人

▼措置の受けられる条件
①誠実で熱心に就職活動をおこなうことができること
②げんざい公共職業安定所に求職の申し込みをしていること
③所得税額が一定の額をこえていないこと

▼申請の手続き方法
公共職業安定所にいけば認定申請書および納税証明書の用紙がありますから、それに記載事項を書いて係に提出してください

▼支給される手当
①職業訓練手当―訓練手当、技能習得手当、寄宿手当
②就職指導手当

※くわしくは吉原公共職業安定所職業紹介係にお問いあわせください

〝無線広報〟のお知らせは毎日午前7時45分と午後4時45分。